

センター通信

「体験格差」について私が思うこと



兵庫県立伊丹北高等学校
生徒会長 中田 美羽

皆さん、学校は好きですか？

私は幼いころから学校という場を通して友人や先生と関わり、触れ合うことがとても好きでした。そして学校は「学びの場」であり、世界中の子どもたち皆に平等に与えられるものだと思っていました。しかし、「学びの場」は学校だけでなく普段の放課後の時間や休日の過ごす時間が「体験としての学び」の大きな場になっていることを知りました。日本には生まれ育った家庭の事情や環境などにより体験の格差が生じ、「学びの機会」が制限されたり、喪失されていることを知りました。その結果、学力格差が生じ、望んだ進学をできない子どもたちがいることも知りました。そこで私は今回「体験格差」について思うことをお話ししたいと思います。

皆さんは「体験格差」という言葉を耳にしたことはありますか。おそらく皆さんのほとんどは耳にはしていても、意識したことはあまりないのではないのでしょうか。なぜなら、私たちはとても恵まれた環境で育ったからです。私はそれがとても幸せで感謝すべきことだと思います。日本には、恵まれた家庭に生まれ、幼いころから習い事や塾などに通わせてもらっているのとは逆に、家庭の事情や貧困などの理由で「望んだ体験」をできない子どもたちが多くいることを知りました。

みんなと一緒に教室で同じ内容を学ぶことや自分の学びたい分野を学ぶということは、一見当たり前のことのように思えますが、決して当たり前のことではありません。そして、授業以外の学び、部活動・塾・習い事・旅行や外食・自然体験などの「体験格差」というのが、現在の日本の「青少年教育」において一つの大きな課題となっています。

私は小学生のころ、週末の習い事の帰りに図書館に通っていました。そこで性別や年齢、家庭環境など立場の全然違う人たちが皆、一様に字を目で追っている姿に何とも言い難い感銘を受けました。

図書館は皆が平等に利用できる素晴らしい空間だと思います。本によって目を開き、世界を知り、探究心を持つ。積極的で能動的な生き方を選ぶ。体験格差を埋めるための有効な手段であると考えます。これからは、どのように図書館やその他の公共施設を、「体験」の恵まれない子どもの家庭にアピールするのか、利用を拓げるためのイベントを企画していくかが、体験格差を縮めることにつながっていくと考えます。

今回私は「体験格差」という課題について考える中で、私の身の回りにある取り組みを知ることができました。そして身の回りにある課題を、見て見ぬふりをするのではなく、人として共感し、手を差し伸べることのできる人を目指していこうと思います。

川西市・伊丹市合同補導活動

9月22日(木)川西市・伊丹市合同で、補導活動を行いました。伊丹市からは、職員2名のほか、少年補導委員連合会会長、有岡・緑丘・南・笹原・鈴原・稲野ブロックから8名の少年補導委員が参加し、イオンモール伊丹で補導活動を行いました。

伊丹市では、繁華街、駅、公園等で問題行動や不良行為を行っている少年に対して、地域全体で青少年を守り育てるという観点から、必要な注意や助言を行い、少年が深刻な状況に陥らないように街頭補導活動を行っています。また、少年補導委員とともに、青少年とのふれあいを大切にし、地域の子どもたちとの関係づくりを大切にしたい温かい、思いやりのある「声かけ」を行っています。



子どもの脳を守れ！ ～地域で子育てする親たちを支える～

マルトリートメント*は子どもの脳を傷つけることが脳科学の画像診断から明らかになってきました。年齢と脳の発達には関係性があり、しかも、各領域に育ち盛りの時期があります。たとえば記憶と感受性を司る「海馬」は3～5歳、音や言葉をキャッチして理解する「聴覚野」は6～10歳といったように、場所によってそれぞれ最も成長していく時期というものがああります。もし、この成長期に何らかの大きなストレスを受けると、脳はダメージ(縮む、肥大するなど)を負って「脳の傷」となってしまいます。

傷ついた脳をもつ子どもたちには、学習意欲の低下、無気力、非行、うつ病などが見られやすく、大人になってからも人との関係をつくれぬ、衝動的でキレやすく集団行動がとれない、アルコール依存や薬物依存に陥りやすいなど、こころや行動の面で問題を抱えやすくなってしまうとされています。

強い情緒的な結びつきは親から愛されている、大切にされているという安心感が子どもの中にあるということであり、子は親と愛情や信頼のキャッチボールをしながら、目と目で見つめ合い、スキンシップで肌を触れ合い、笑いかけたり優しく言葉かけをして、子どもの中に「いつでも戻ってこられる安全基地」を形成していきます。子どもが安心を感じられる体験を積み重ねることがマルトリートメントを受けた子どもへの治療となります。一方で、子育て中の父母に「よくやっているね。頑張っているね。」など、ねぎらいやほめる言葉をかけ、社会全体で子育てする親たちを支える。こういう意識が広がっていけば、子どもたちをマルトリートメントから守り、健やかな成長へと導いていくのではないかと思います。

*マルトリートメント 子どもが愛情を受け取りにくい養育の仕方

例えば、不適切な親の言動・行為、身体への暴力、暴言や脅し、性的な暴力、育児放棄など

<参考>・「サイエンス ZERO」(NHK 2022年1月12日放送)

・「実は危ない! その育児が子どもの脳を変形させる」(PHP 研究所) 小児神経科医 友田 明美著

*前期<4月～9月>の集計 ()内の数字は9月分-暫定値-

補導活動	幼児 小学生		中学生		高校生 その他		大人	
	人数	(割合)	人数	(割合)	人数	(割合)	人数	(割合)
あいさつ	10310	(2290)	1342	(122)	474	(54)	2467	(365)
声かけ	2241	(371)	331	(18)	314	(38)	740	(76)
遊びに関する	63	(0)	58	(0)	27	(0)	0	(0)
交通に関する	105	(8)	36	(0)	40	(9)	66	(10)
その他	41	(10)	15	(0)	8	(9)	8	(10)

相談活動	件数		有害図書回収状況	
	件数	(割合)	冊数	(枚数)
電話相談	21	(4)	576	(274)
来所相談	20	(1)	1758	(337)
メール相談	6	(1)		

県警によると、伊丹市内で2021年に起きた自転車と車の事故は234件で、人身事故に占める割合は34.6%、県全体(23.4%)より突出しています。伊丹市では事故減少のために、自転車事故多発地を校区単位でハザードマップを作成し、全戸に配布しました。(神戸新聞 2022.9.10)

少年補導委員の【交通に関する声かけ】の具体は2人乗りや無灯火走行が多く報告されています。まずは、私たち大人が子どもたちのお手本になりたいものです。

子どもと保護者のためのなやみ相談窓口

<電話相談> ☎ 072-770-8742
月曜日～金曜日(年末年始・祝日を除く) 10:00～17:30
<来所相談>(要予約) ☎ 072-780-3540
月曜日～金曜日(年末年始・祝日を除く) 10:00～17:00
<メール相談> aigo@itami.ed.jp
または、当センターHPのメールフォームをご利用ください

白ポスト設置場所 (市内15カ所)

- 東塚公園・中野西公園
- 裁判所前・いたみホール
- 南センター・北センター
- 阪急稲野駅・阪急伊丹駅
- 阪急新伊丹駅・JR伊丹駅1F
- JR北伊丹駅南口・山田バス停
- 京牧バス停・バラ公園バス停
- 西崎津バス停

— お知らせ —

阪神北少年サポートセンター
所長さんが交代されました。
新所長は、長田署から来られた土本慎二さんです。
前任の上地所長は、県警本部への異動となりました。

<10月の主な行事>

- | | | | | |
|-------|---------------------------------|------|--------------------|----------|
| 5(水) | 伊丹市少年補導委員連合会 役員会 | (随時) | 街頭補導活動 | (各小学校区) |
| 5(水) | 伊丹市少年補導委員連合会 定例理事会 | | 中学校区内補導活動 | (各中学校区) |
| 11(火) | 広報啓発活動 一斉補導 | | 電話・来所・メール相談 | (愛護センター) |
| 14(金) | 伊丹市少年育成協会 常任理事会 | | | |
| 24(月) | 有害図書回収 | | (9月～11月)第2回愛護補導連絡会 | (各小学校) |
| 26(水) | (10月～11月)第2回学校補導連絡会 | | | (各中学校) |
| 28(金) | 第55回 兵庫県青少年補導委員大会・研修会 | | | |
| | 第50回 近畿地区青少年補導センター連絡協議会 総会・研修大会 | | | |

*「センター通信」へのご意見ご感想を、伊丹市立少年愛護センター(Tel. 072-780-3540)までお寄せください。